Ⅴ　報道記事

1　平成30年７月【かごしまの教育】掲載

かごしまの教育

鹿児島県
No.75
平成30年7月

あしたをひらく心豊かでたくましい人づくり　鹿児島県教育委員会

鹿児島県教育委員会ホームページURL　http://www.pref.kagoshima.jp/kyoiku/

かごしまのスーパーハイスクール 5

文部科学省の指定を受け探究的な学びを牽引する5校を紹介します

SSH スーパーサイエンスハイスクール

【錦江湾高校生によるわくわく実験教室】

「科学への夢」「科学を楽しむ心」を育み，
生徒の個性と能力を一層伸ばしていくことを目指します

錦江湾高等学校（平成17年度から）

生徒個人の興味や鹿児島の自然を題材に，全校体制で充実した探究活動を展開しています。SSH を経験した卒業生も社会の各分野で活躍しています。

鹿児島中央高等学校（平成30年度から）

現代社会が抱える多くの課題を解決できる人材を育成するため，科学的な視点や思考を基にし，文理の垣根を超えた幅広い課題研究を進めます。

国分高等学校（平成30年度から）

霧島が有する探究資源を活用した課題研究を軸にフィールドワークや海外研修を行い，持続可能な社会に貢献できるグローバル人材を育成します。

SGH スーパーグローバルハイスクール

グローバルな社会課題を発見・解決し，
様々な国際舞台で活躍できる人材を育成します

【課題研究ポスターセッション】

甲南高等学校（平成27年度から）

国際的に活躍できるリーダーの育成を目指し，社会問題に対する関心を高め，台湾やイギリス等で課題研究発表を行うなどコミュニケーション能力，自己表現力等が身に付く教育活動を行っています。

SPH スーパープロフェッショナルハイスクール

【チョウザメの種苗生産】

高度な知識・技能を身に付け，
社会の第一線で活躍できる専門的職業人を育成します

鹿児島水産高等学校（平成30年度から）

将来にわたって水産業及び海洋関連産業の動向に対応でき，豊富な知識と高度な技術力を習得しながら，「地域の災害に備える」や「地域の産業を支える」という視点から地域に貢献する取組を展開します。

2　平成30年７月28日【南日本新聞】掲載

2018年(平成30年)7月28日

鹿水産が「スーパー専門高」

県内初指定

水中ロボット、備蓄食研究

枕崎市の鹿児島水産高校が本年度、文部科学省のスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール(SPH)に指定された。全国で8校、九州の水産系高校や県内では初めて。地域貢献につながる七つのテーマに取り組み、水産業や海洋関連産業の動きに対応した知識や技術習得を図る。

行政や大学、地元の団体・企業と連携し、第一線で活躍できる専門的職業人を育成する狙い。指定期間3年。同校の海洋、情報通信、食品工学の3科が、災害への備えと産業支援を柱に研究する。

海洋科機関コースは、船舶機関士不足の解消や災害時の早期支援につなげるため、港湾内の航路を確保する水中ロボットの実用化に取り組む。情報通信科は臨時災害放送局の開設に向けて活動し、食品工学科は地元食材を使った備蓄製品の開発を目指す。

岸下純弘校長は「他の水産系高校の参考になるような活動にしたい」と意気込みを語った。

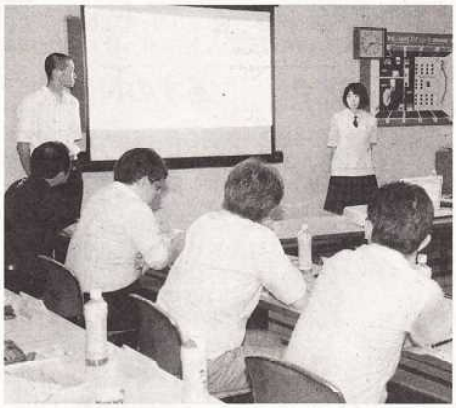
(入角里絵子)

3　平成30年８月11日【讀賣新聞】掲載

(平成30年)8月11日(土曜日)　讀賣新聞

鹿児島水産高でSPH概要報告

地域産業支援など７件



生徒らの報告などが行われた委員会

文部科学省のスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（SPH）に指定されている県立鹿児島水産高（枕崎市）は7月、第1回SPH運営指導委員会を同高で開いた。取り組みに協力・助言する関係団体や研究者らの運営指導委員と教員ら約20人が出席し、概要や取り組みが報告された。

SPHは、社会の第一線で活躍できる専門的職業人の育成を目的に、文科省が2014年度から先進的な取り組みを行う専門高校を対象に指定している。毎年度8～10校が指定され、県内からは今年度、同高が初めて指定を受けた。3年の期間中、生徒らはテーマに応じた研究に取り組むことで専門性を高める。

同高のテーマは「地域の災害に備える」「地域の産業を支える」で、7件の取り組みを行う。具体的には、災害時の臨時放送局開設や地元食材を生かした備蓄食料開発のほか、藻場の再生・回復、キャビア生産のためのチョウザメの種苗生産など。

7月19日に開かれた委員会では、備蓄食料について運営指導委員から「賞味期限をできるだけ長期にして、おいしいものを作って」との声が上がった。チョウザメ飼育に関しては、学校側が水族館の担当者に「大型淡水魚の飼育を勉強させてほしい」と求めた。

岸下純弘校長は「全学科、コースの生徒を対象に、全国の水産系高校の目標となるような取り組みにしたい」と述べた。委員会は年3回開催し、進展状況の報告や意見交換などを行う。

4　平成30年８月23日【みなと新聞】掲載

みなと新聞
（5）　2018年（平成30年）8月23日　木曜日

鹿児島水産高

研究者育成機関に国指定

チョウザメ養殖など指導

【鹿児島】鹿児島県立鹿児島水産高（鹿児島県枕崎市）は今年度から文科省のスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（SPH）に指定され、社会で活躍できる専門的職業人の育成を目指す。地元企業と連携し、チョウザメの種苗生産、水中ロボットの開発などの研究課題に着手。水産業、海洋関連産業の豊富な知識、技術力を習得した人材を輩出する計画だ。

SPHは高度な知識や技能を身に付け、社会の第一線で活躍できる専門的職業人を育てる文科省の補助事業。2018年度予算額は1億4900万円。これまで水産関係では静岡県立焼津水産高、山形県立加茂水産高、愛知県立三谷水産高、愛媛県立宇和島水産高が指定を受けている。

九州初の指定となった鹿児島水産高では今年度から「本物の専門的職業人」を育成するプログラムをスタート。「地域産業を支える」「地域の災害に備える」を柱に7つの取り組み＝表参照＝を始めた。

具体的には生徒が放課後や土日、夏休みなど使い、①キャビア製造における品質向上やチョウザメ種苗生産技術の確立②災害時に港湾内の航路を確保するための水中ロボット開発③枕崎港で水揚げされる未利用魚などを活用した備蓄可能食品の開発―などに取り組む。

プログラムではこれまでの教科書中心だった学習から実践力を磨く学習に重点を置き、企業が求める積極性、協働性などの能力を高める。SPHの指定期間は3年だが、「国の予算がなくなっても取り組みは続けたい。3年間で学習ノウハウをつくり、将来の生徒も学べるよう努める」（同高）という。

チョウザメの種苗生産に取り組む生徒

鹿児島水産高「本物の専門的職業人」を育成するプログラム

地域の災害に備えた取り組み	①港湾内の航路を確保する水中ロボット開発
	②臨時災害放送放送局の開設に向けた取り組み
	③地元食材を生かした備蓄可能製品の開発
	④防災かまどベンチで調理可能な非常食レシピの開発
地域の産業を支える取り組み	⑤藻場への新たなアプローチ
	⑥チョウザメ種苗生産とキャビアの活用
	⑦海技免許講習の充実による後継者育成の取り組み

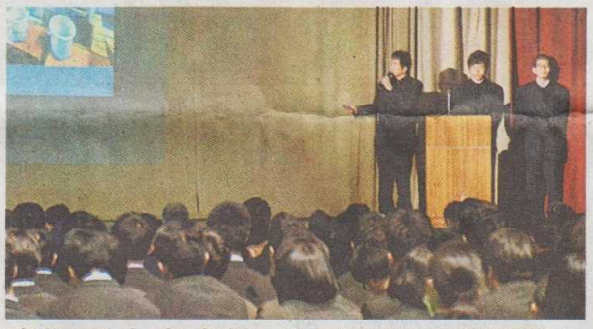
5　平成31年１月27日【南日本新聞】掲載

2019年(平成31年)1月27日　日曜日　南日

専門的職業人へ研さん

鹿水産高で報告会

専門的な職業人を育成する文部科学省のスーパー・プロフェッショナル・ハイスクールに指定されている



鹿児島水産高校（枕崎市）で23日、研究成果報告会があった＝写真。

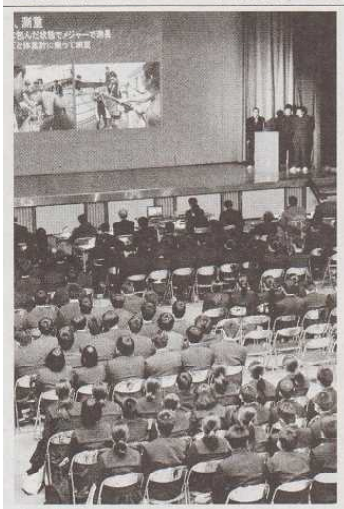
地元食材を使った備蓄製品を手掛ける食品工学科の生徒は、非常食への意識調査を行い試作を重ねた。フリーズドライの技術を応用したみそ汁、パエリアのレトルトパウチ食品の研究に至った経緯を紹介した。

海洋科栽培工学科コースは、チョウザメの種苗生産技術の確立と高品質のキャビア製造を目指す。ふ化実験や稚魚育成に挑戦し、水温調節の難しさといった課題を報告した。

指定期間は2018年度から３年間。災害への備えと地域産業の支援を柱に、行政や地元企業などと連携し、水産・海洋関連の七つのテーマに取り組む。（入角里絵子）

6　平成31年１月30日【讀賣新聞】掲載

2019年(平成31年)1月30日(水曜日)　讀賣　鹿児島 12版　地



取り組みを発表する生徒ら

鹿児島水産が研究報告

SPH指定高 7テーマ、活動や展開

文部科学省のスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール（SPH）に指定されている県立鹿児島水産高（枕崎市）は23日、同高で研究成果報告会を開いた。生徒やSPH運営指導委員、地元中学生ら約400人が参加し、報告に耳を傾けた。

SPHは、地域に貢献する取り組みを通じて、社会の第一線で活躍できる専門的職業人の育成を目指すプログラム。県内で初めて指定を受けた同高は、今年度から3年間、「地域災害に備える」「地域産業を支える」という二つの視点で、7テーマの研究活動を行っている。

この日は、生徒らがテーマごとに取り組みと今後の展開などを報告した。海洋科栽培工学コースの2年生は、「藻場への新たなアプローチに関する取り組み」を紹介。指宿、南九州市で潜水技術を活用し、海藻を食い荒らすウニ類約2万個を除去した活動を発表し、「今後はドローンによる空撮も活用して藻場の管理を目指す」と述べた。

このほか、「臨時災害放送局開設に向けた取り組み」（情報通信科）や「地元の食材を生かした備蓄可能な製品の開発」（食品工学科）、「海技免許講習の充実による後継者育成に関する取り組み」（海洋科海洋技術コース）などが報告された。

県教委は「具体性があり、今後に期待できる。結果をしっかり分析し、グレードアップを目指してほしい」などと講評した。